

令和7年度12月までの 病院経営状況について

事務局 経営企画課

医業損益の比較

4月－12月までの医業損益の比較

(千円)

科目	R6年4月－12月		R7年4月－12月		比較
医業収益	17,585,404	(100.0%)	17,087,699	(100.0%)	▲ 497,705
入院	11,816,643	(67.2%)	11,565,260	(67.7%)	▲ 251,383
外来	3,580,907	(20.4%)	3,614,073	(21.2%)	+ 33,166
その他	2,187,854	(12.4%)	1,908,366	(11.2%)	▲ 279,488
医業費用	18,350,117	(104.3%)	18,516,448	(108.4%)	+ 166,331
給与費	7,288,244	(41.4%)	7,706,009	(45.1%)	+ 417,765
材料費	5,196,619	(29.6%)	5,274,259	(30.9%)	+ 77,640
経費	2,326,282	(15.0%)	2,414,543	(15.8%)	+ 67,554
減価償却費	3,008,948	(17.1%)	2,578,608	(15.1%)	▲ 430,340
医業損益	▲ 764, 713		▲ 1, 428, 749		▲ 664, 036

いわゆる
“減収減益”

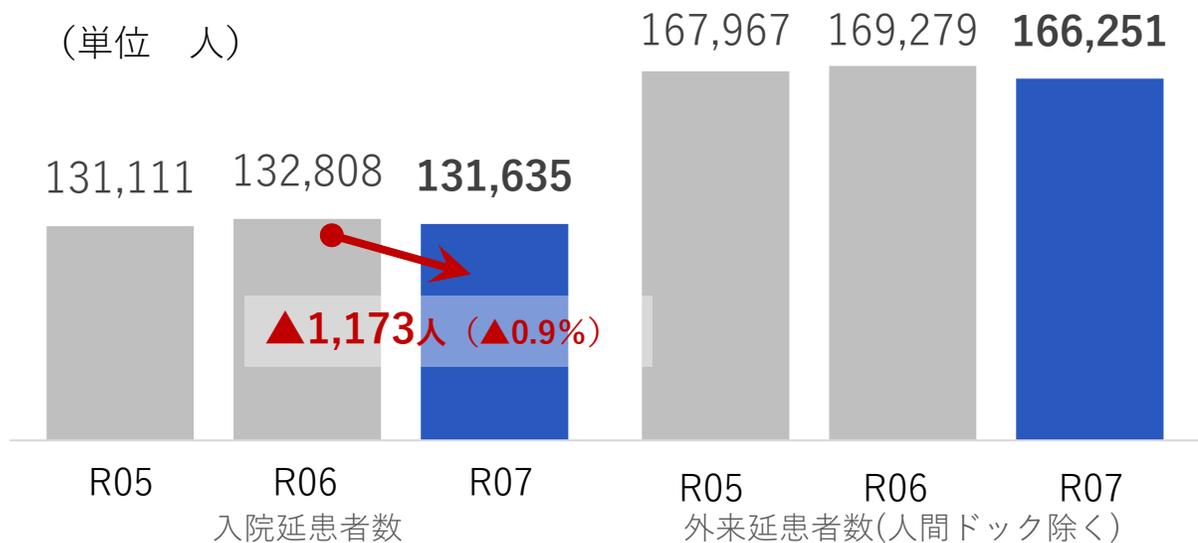
約6.6億円
収支悪化

※ () は対医業収益比率

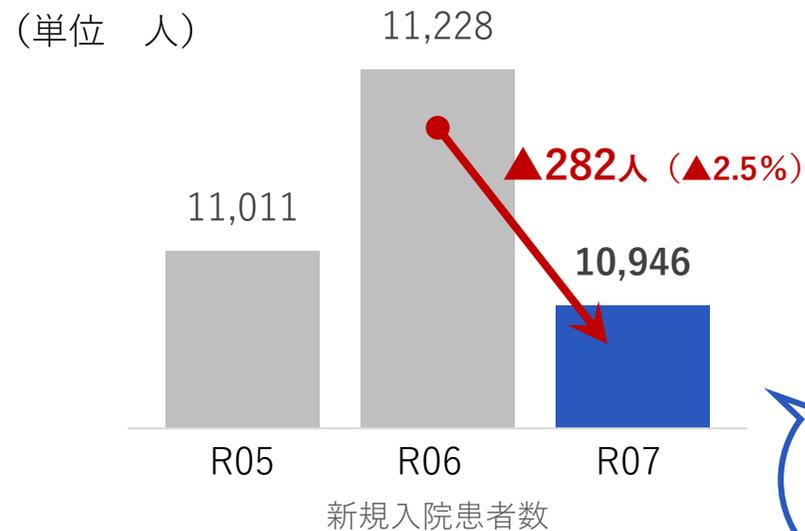
※医業収益>その他 には長期前受金戻入 (本来は医業外収益) を含む

患者数・病床利用率の比較

■入院・外来延患者数（各年度4月～12月）

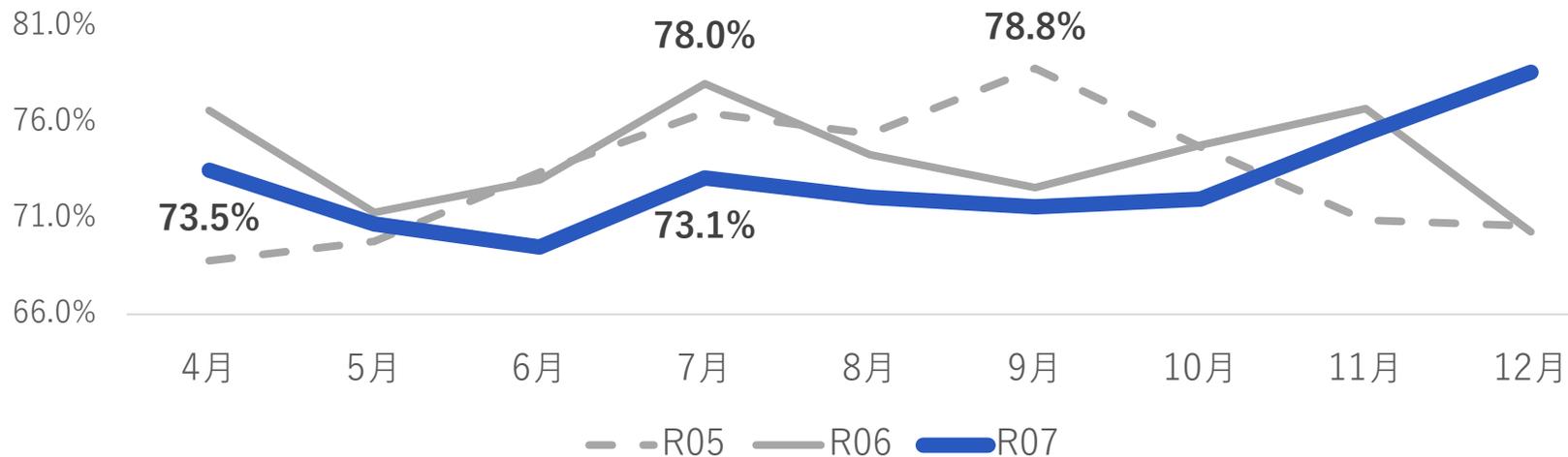


■新規入院患者数（各年度4月～12月）



産婦人科
で減少

■病床利用率（7：1病棟/570床ベース）



12月までの平均

R05：73.2%

R06：74.2%

R07：73.0% (対前年▲1.2%)

利用率低下

診療科別入院稼働額の比較

(単位 千円)

診療科	R6.4-12	R7.4-12	比較	備考
産婦人科	1,108,137	923,599	▲ 184,538	新規患者：▲302人
減 うち産科	521,774	436,556	▲ 85,218	新患：▲107人 (675→568)
少 うち婦人科	586,363	487,043	▲ 99,320	新患：▲195人 (893→698)
消化器内科	783,149	764,908	▲ 18,241	延患者：▲821人 (12,838→13,659)
増 整形外科	1,828,308	2,002,853	+174,545	新規患者：+127人 (1,478→1,605)
加 循環器内科	1,989,409	2,088,587	+99,178	新規患者：+13人 (1,619→1,632)

産婦人科

《分娩件数》

▲92件：595件→503件

自然分娩：▲10件(342→332)

《手術件数》

▲98件：614件→516件

帝王切開：▲75件(239→164)

腹腔鏡下手術：▲50件 (102→52)

《手術料収益》

▲45,935千円 (271,244千円→225,310千円)

産科：▲21,520千円 (76,452→54,932)

婦人科：▲24,414千円 (194,792→170,378)

■ 主な評価指標の比較

No.	項目	R6.4-12	R7.4-12	比較
1.	救急車受入台数	2,979台	3,116台	+137台
2.	紹介患者数	10,527人	10,663人	+136人
3.	逆紹介患者数	8,576人	8,865人	+289人
4.	新規入院患者数	11,228人	10,946人	▲282人
5.	DPC収益	+46.0億円	+46.0億円	+0.0億円
6.	病床利用率(7対1)	74.1%	73.0%	▲1.1%
7.	入院延患者数	132,808人	131,635人	▲1,173人
8.	外来延患者数	169,279人	166,251人	▲3,028人
9.	平均在院日数	11.8日	12.0日	+0.2日

救急車受入は前年と同程度だが、EICUの利用率は低下している。
 【EICU延患者数 対前年同時期】
 4,066人→3,733人(▲333人)
 【EICU利用率 対前年同時期】
 73.9%→67.9% (▲6.0%)

医局会で利用率上昇に向けて協議

新規入院患者数・病床利用率は低下しているが、DPC収益は横ばい

手術料など出来高が減少

手術件数 対前年同時期
 4,919件→4,766件 (▲153件)

医業費用の比較

給与費

- ✓ 職員数増加の影響
- ✓ 給与改定の影響

【支給対象者数】

育休者の減など

看護師

約680人→約705人
(+25人)

コメディカル

約205人→約215人
(+10人)

看護
補助者等

約65人→約75人
(+10人)

(千円)

	看護師給	医療技術員給	労務員給
R6.4-12	1,842,275	562,679	105,731
R7.4-12	1,964,683	604,180	134,905
比較	+122,408	+41,501	+29,174

3職種の給料だけでも**1.9億**の増

材料費

- ✓ 診療材料費の増加

106,489千円の増加

1 納入単価の上昇

対前年比 平均約1%の値上げ
針や糸などの非償還材料も値上げしている

2 高額材料の使用比率の増

R6上期：50.5%→R7上期：51.7%
(+1.2%)

▶ 高額材料を使用する手術の増が要因
(例) オクタレイ(循内・カテテル手術)
R6上期：61件→R7上期：113件
(約+18,668千円)

↑ これに対して

ベンチマークを活用した価格交渉
▶ 上期で約1千万円削減

経費

- ✓ 高額医療機器の保守委託の増加
R5年度に購入したものが1年間のメーカー保守(無償)期間を経過し、新たに保守委託料が発生

1 MRI (R6.3月購入) 導入額：2.1億円
+18,796千円/年 の皆増

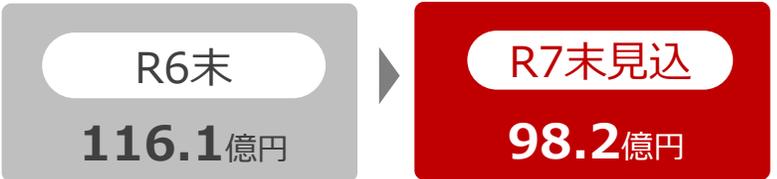
2 リニアック装置 導入額：6.4億円(H29)
+15,163千円/年
(機器アップグレードに係る追加分等)

3 PACS (R6.3月購入) 導入額：3.3億円
+33,165千円/年 の皆増

■ 現時点でのR7年度決算見込み



現金残高 (投資有価証券を含む)



赤字幅を小さくするために
できることからカイゼンしていく